

表 18 外部評価シート

**広島大学薬学部「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」
高度医療専門職チーム力・臨床指導力の育成
～薬学部・保健学研究科の協働によるチーム医療共育～
外部評価シート**

1. 下記の点について下記の5段階で評価をお願い致します。

(1) 本取組の社会的ニーズ

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(2) 今後の薬学教育における本取組の必要性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(3) 社会的ニーズに対する本取組の目標設定の妥当性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(4) 薬学教育における本取組の目標設定の妥当性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(5) 実施計画全体の妥当性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(6) 平成 23 年度実施計画の妥当性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(7) 実施体制の妥当性

【 1. 不十分 2. やや不十分 3. 中程度 4. 良好 5. 非常に良好】

(8) 経費支出の妥当性

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(9) 平成 23 年度実施計画の達成度

【 1. 低い 2. 高いとは言えない 3. 中程度 4. 高い 5. 非常に高い】

(10) 平成 23 年度報告書の記載事項

【 1. 不十分 2. やや不十分 3. 中程度 4. 良好 5. 非常に良好】

2. 上記の観点の中で、特に改善が必要な点をお書き下さい。

3. 総評をお書き下さい。

表 19 平成 24 年度外部評価結果

1. 下記の点についての評価結果（5段階での平均点）

- (1) 本取組の社会的ニーズ：5
- (2) 今後の薬学教育における本取組の必要性：5
- (3) 社会的ニーズに対する本取組の目標設定の妥当性：5
- (4) 薬学教育における本取組の目標設定の妥当性：5
- (5) 実施計画全体の妥当性：4.7
- (6) 平成 23 年度実施計画の妥当性：4.7
- (7) 実施体制の妥当性：4.7
- (8) 経費支出の妥当性：4.7
- (9) 平成 23 年度実施計画の達成度：4.7
- (10) 平成 23 年度報告書の記載事項：4.7

2. 上記の観点の中で特に改善が必要な点：(順不同)

評価委員 # 1：

改善が必要な点はありません。

評価委員 # 2：

平成 23 年度実施計画の妥当性：全体的に妥当性は高いと考えます。ただ、個別の案件になりますが、計画⑥において、参加薬剤師人数は 2 名の計画となっています（実績も 2 名）。本計画の具体的成果として、薬学部臨床系講義に参加した保険薬局薬剤師への教育効果を聞き取り調査し、参加薬剤師の臨床実践力向上の状況把握、参加薬剤師数増加改善に向けた課題抽出ができたと記載されていますが、これらの状況把握および課題抽出を行うためには 2 名の薬剤師では少なすぎるように思います。平成 24 年度の参加予定人数は 4 名とのことですが、今後、より多くの薬剤師の参加を望みます。

平成 23 年度実施計画の達成度：全体的に達成度は高いと考えます。ただ、個別の案件になりますが、計画⑩において、予定では薬学部学生 60 名、看護学専攻

学生 10 名が参加して患者 QOL 実感学習を実施するとなっていますが、実績としては薬学部学生 58 名に対して看護学専攻学生の参加は 2 名となっています。また、参加医療職は薬剤師 1 名のみで大学教員は参加しているものの看護師・助産師の参加は実現できていません。本計画の具体的成果として、職種間相互理解の向上、指導者の指導力向上、地域医療への貢献が記載されていますが、達成度はあまり高くないかもしれません。今後は、より多くの看護学専攻学生および看護師・助産師の参加を望みます。

評価委員 # 3 :

特別改善が必要と思われることは、ないように思われます。

3. 総評

評価委員 # 1 :

1. 本事業は、従来の医療人養成教育で不十分な“専門職チーム力”や“臨床指導力”の育成を標榜した、社会的ニーズを的確に捉えた先駆的取組だと思います。
2. 本事業は、広島大学薬学部および保健学研究科の現有する人的・物的資源をフルに活用して、地域実習施設とも連携・協働した取組であり、高く評価されます。多職種連携は、多くの苦労があったと思われませんが、年度ごとの取組を段階的に拡大していく形をとり、無理なく、着々とその実績があがっていると判断されます。
3. 特に、地域薬剤師や看護師・助産師の方々の協力を得て、本事業関係者が互いに切磋琢磨できる体制を構築した点は、素晴らしく、まさに“共育”の理念と合致します。
4. 本事業の取組は、ホームページ上に掲載されていますが、貴大学の先導的な取組が、全国の大学関係者の参考となり、さらに普及するように、ホームページ掲載内容の充実を期待します。
5. 本事業が、学部教育の段階的な学びのステップに有機的に連動するように設定されていることは、本プログラムを履修した学生が、将来、医療現場で働きながら、生涯研鑽や後輩の育成などへのモチベーションを高める上でも有益であり、本事業の継続的な運用（プラスのスパイラル）を可能にしていると思います。

評価委員 # 2 :

高度医療専門職チーム力・臨床指導力の育成という社会と薬学領域でのニーズにマッチした取り組みで、すでに働いている医療職が大学において学生指導を実施するとともに自らも学び育つという非常に効果的かつ独創的な取り組み

だと考えます。平成 23 年度は多くの事業への取り組みが認められ、ほぼ計画とおりに進めていることは評価できます。ただ、「上記の観点の中で、特に改善が必要な点をお書き下さい。」に記載しましたように、医療職参加者の人数および両学部学生の参加者人数の割合が不適切と思われる個所も存在します。今後、その点を改善していただくことを望みます。

評価委員 # 3 :

チーム医療を推進するには、多職種への理解は欠かせないので、薬剤師・看護師・助産師が合同してワークショップなどで臨床課題に取り組むことは非常に有意義なことだと思われる。

今後、このプログラムが学生教育にとどまらず広く質の高い医療スタッフを育成するプロジェクトへと進化し、様々な世代が参加して患者から信頼される良質な医療サービスが確保できるようにお願いします。